

【施策評価調査】

| | | | | | |
|------|--|----------------------|--------|-------|---|
| 施策名 | 2-3-4 | 学齢障害児の年中活動支援 | | 90 | 施策目的 障害者が地域で自立した生活が送れるように 1 障害児者の活動拠点となる施設を確保し、社会参加を促進します。 電話や来所、訪問による相談及びその後の継続的なフォローを行います。 障害者の自立と社会参加及び介護者を支援するための態勢づくりを構築します。 一時預かりによる障害児の安全確保、集団生活による自立促進を図ります。 個々人のライフステージに応じた支援体制を整備します。 当施策は、 の観点から学齢障害児が集団の中で交流を図りながら自立促進に向けていくこと、保護者の負担を軽減し、就労時間の確保へとつなげていきます。 |
| | | 高根沢町地域経営計画2006 該当ページ | | | |
| 担当部課 | 住民生活部健康福祉課 | 担当リーダー | 社会福祉担当 | 赤羽 一夫 | 施策内容 町独自の障害福祉サービスとして、学齢障害児の年中活動を支援する就学児デイサービス事業を、ライフステージに応じた継続的・効果的な支援が行えるよう、コーディネーターによる相談支援と合わせて実施します。その際、共生社会を目指す施策のひとつとして、健常児といっしょに過ごす場の設定を行います。(「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋) |
| 環境変化 | 当該事業は需要が多いにもかかわらず支援費制度の対象外であったため、町独自の事業として実施しています。障害者自立支援法ではその必要性が認められ、年中一時支援事業として位置付けられましたが、他事業との整合性や利便性を考慮して、平成18年度は町単独事業として実施しています。 | | | | |

指標

| 施策の評価指標 | 基準値 | 年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 |
|-----------------------|--------|----|------|------|------|------|------|
| 指標 : 就学児デイサービスの実施(箇所) | 平成16年度 | 計画 | 0箇所 | 0箇所 | 0箇所 | | 1箇所 |
| | | 実績 | 0箇所 | 0箇所 | 0箇所 | | |
| 指標 : | | 計画 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| 指標 : | | 計画 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| 指標 : | | 計画 | | | | | |
| | | 実績 | | | | | |
| 指標に関する特記事項 | | | | | | | |

| 施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移 | 年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 |
|-----------------------|----|-----------|-----------|-----------|-----------|------|
| | 当初 | 6,384,000 | 6,404,000 | 6,864,000 | 8,911,000 | |
| | 決算 | 2,660,000 | 6,404,000 | 6,864,000 | | |

事務事業事前評価 22年度の組立て

| 施策傘下事務事業 | 事業費 | 活動指標(アウトプット) | 事業の実施によって、施策達成にどう貢献しますか？(アウトカム) | 今後の方向性(総合評価) | 継続 |
|------------|------------------|---------------------|---|--------------|----|
| 障害児教育支援事業費 | H21 現計 8,911,000 | サービス利用延べ人数 1530人 | 児童館きのこのもりにおいての一時預かりが定着したことや、健常児と障害児との交流が図られ、自立へのきっかけとなっている。特に学校等への送迎は、施設規模・人員・車両数には限度があることから、サービス利用量についての基準を検討していく。 | 今後の方向性(総合評価) | 継続 |
| | H22 計画 8,910,200 | | | | |
| | H21 現計 | | | 今後の方向性(総合評価) | |
| | H22 計画 | | | 今後の方向性(総合評価) | |
| | H21 現計 | | | 今後の方向性(総合評価) | |
| | H22 計画 | | | 今後の方向性(総合評価) | |
| | H21 現計 | | | 今後の方向性(総合評価) | |
| | H22 計画 | | | 今後の方向性(総合評価) | |

施策事前評価 22年度の組立て

| 自己評価 | 後期計画に向けた施策展開のビジョン | | H22年度の狙い |
|--------|---|---|----------|
| | 今後の方向性 | 障害児者は増加していることから、通学等の移動支援の充実を検討していくことが必要である。 | |
| 現状水準維持 | | | |
| 総合評価 | 積極的に施策展開され、町の誇れるサービスの一つと評価する。後期計画に向けて、ニーズが多様化している中で、町としてどこまでのサービスを提供すべきなのか見極めた上で、施策展開を検討すること。 | | |